

## 1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し (全国市中数量調査の自社所有分による)

\*上段は前期比在庫増減、中段〔 〕は在庫水準、下段( )は在庫水準前期比(%) (自社所有分に限る。  
点線内は全鉄連による予想数字( )内は誤差率=予想値÷実績

平成23年9月末	平成23年12月末	平成24年3月末見通し	平成24年6月末見通し
-4千トン 〔 2328# 〕 (99.8%)	-36千トン 〔 2297# 〕 (98.7%)	-19千トン 〔 2278# 〕 (99.2%)	-23千トン 〔 2255# 〕 (99.0%)
2232千ト(95.8)	2264千ト(98.6)	*	*

## 2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

平成23年9月末	平成23年12月末	平成24年3月末見通し	平成24年6月末見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は80,000円で前年比+2,200円、前期比では-1,900円。5~6月の最悪期を脱し、電力不足の夏を乗り切り、秋口には回復感が漂っていた。製造業関連は震災前の生産水準に近い状態となったが、円高、タイの洪水と不安材料も露呈し、見通しが不透明となっていた。また、復興需要は本格化せず、行政の具体的施策が待たれる段階であった。市況には上昇期待があった。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は78,000円で前年比+1,000円、前期比では-2,000円。先安感が強い市況展開であった。建設や復興需要に期待感はあるが、具体化されておらず内需は停滞していた。更には円高による輸出関連企業の採算悪化、打開策としての海外移転による産業空洞化で先行き不安が高まっていた。それらが需要不足の状況さらに助長し、市場環境改善への道筋を阻害していた。	気重い商況場面が続いている。在庫は横ばいで推移しているが販売見合いとはなっていない。需要に対する期待は先送りとなり、復興需要の本格化には時間を要すとの見方が大勢を占めている。円高は修正安の動きとなったが予断を許さない。市況はメーカー主導による改善策が打たれているが、市中の反応はいたって鈍い。逆に需要の少なさのため一部にはあった。	前期より多少は良くなる。これには期待感も含まれているが、遅れていた需要が出始め、メーカー値上げが市況に反映される展開となれば市場環境は好転するだろう。ただ、前期の状況の悪さを引きずるため様変わりの改善は想定できず、先行きに対する不透明感は払拭できそうにない。いつに掛かって需要の出方によるところが大きく、それによって市況の動きも左右される。メーカー値上げとユーザーの値引き要求に挟撃されることだけは避けたい。

## 3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

当面、当用買いに徹する姿勢であり、在庫積み増し意欲は乏しい。在庫量自体はそれほど高い水準ではないが、販売が不振となっているため過剰感に捕らわれている面がある。また、市況動向が弱含みから脱却できないことも在庫意欲を削いでいる。

## 4. 大阪、愛知の動向

(大阪) 他地区では復興需要が出始めたと聞くが、関西地区ではそうした動きも見られず、各品種とも盛り上がり欠けている。4月以降のメーカー動向も不透明なため、様子見の状況にある。被災地の復興策や内需喚起のための早急な対策が望まれる。

(愛知) 自動車関連は好調であるが、4月以降の動きが懸念される。造船は足元の仕事量は確保しているが、徐々に仕事は減っている。産機、建機も円高が和らいだとはいえ、その影響で暫減状態である。建築については、地元の大型物件は皆無。大手ファブは5月まで仕事をもっているが、それは関東物件である。店売り向け在庫は多くないが、在庫の持ち方がメーカーの販売姿勢に左右され、店売り独自の動きというものがなくなりつつある。